

科目名	臨床検査演習			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年	必修・選択	必修
[授業の目的・ねらい]							
言語聴覚療法の検査における基本的な知識と技術を習得する。							
[授業全体の内容の概要]							
学んだ検査法を確認し、言語聴覚士として必要な知識・技能、患者対応のあり方について学ぶ。							
[講師の実務経験]							
[授業終了時の達成課題(到達目標)]							
言語治療において、大切な情報収集の中核となる検査を、系統的に行うことを目的とします。主に失語症のリハビリテーション計画を立案するために、SLTA、WAB失語症検査の内容を把握し、手順を習得する。また、検査の解釈と評価もあわせて学習する。							
回数	講義内容						
1	標準失語症検査(SLTA)の概要説明、実施にあたっての全般的注意						
2	練習問題をしながら聴く項目の説明(検者と被検者に分かれて演習)						
3	"						
4	練習問題をしながら話す項目の説明(検者と被検者に分かれて演習)						
5	"						
6	練習問題をしながら書く項目の説明(検者と被検者に分かれて演習)						
7	症例Ⅰの検査場面を見て、反応を記録し採点する(VTR利用)						
8	症例Ⅰの成績を出し、初期評価する						
9	症例Ⅰの訓練プログラムを立案する						
10	他の練習問題をやる						
11	"						
12	"						
13	症例Ⅱの検査場面を見て、反応を記録し採点する(VTR利用)						
14	WAB失語症検査の概要説明						
15	WAB失語症検査(検者と被検者に分かれて演習)						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名		著者名		出版社			
標準失語症検査マニュアル 第2版		日本高次脳機能障害学会		千葉テストセンター(新興医学出版社)			
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							